



Magic 用語集

Magic eDeveloper V9 Plus

Magic Software Japan K.K.

本マニュアルに記載の内容は、将来予告なしに変更することがあります。これらの情報について MSE (Magic Software Enterprises Ltd.) および MSJ (Magic Software Japan K.K.) は、いかなる責任も負いません。

本マニュアルの内容につきましては、万全を期して作成していますが、万一誤りや不正確な記述があったとしても、MSE および MSJ はいかなる責任、債務も負いません。

MSE および MSJ は、この製品の商業価値や特定の用途に対する適合性の保証を含め、この製品に関する明示的、あるいは黙示的な保証は一切していません。

本マニュアルに記載のソフトウェアは、製品の使用許諾契約書に記載の条件に同意をされたライセンス所有者に対してのみ供給されるものです。同ライセンスの許可する条件のもとでのみ、使用または複製することが許されます。当該ライセンスが特に許可している場合を除いては、いかなる媒体へも複製することはできません。

ライセンス所有者自身の個人使用目的で行う場合を除き、MSE または MSJ の書面による事前の許可なしでは、いかなる条件下でも、本マニュアルのいかなる部分も、電子的、機械的、撮影、録音、その他のいかなる手段によっても、コピー、検索システムへの記憶、電送を行うことはできません。

サードパーティ各社商標の引用は、MSE および MSJ の製品に対するコンパチビリティに関しての情報提供のみを目的としてなされるものです。

本マニュアルにおいて、説明のためにサンプルとして引用されている会社名、製品名、住所、人物は、特に断り書きのない限り、すべて架空のものであり、実在のものについて言及するものではありません。

Magic は Magic Software Enterprises Ltd. のイスラエルその他の国での商標または登録商標です。

Magic eDeveloper、Magic Client および Magic Application Server は Magic Software Japan K.K. の商標です。

Pervasive.SQL は Pervasive Software, Inc. の商標です。

Microsoft および FrontPage は、Microsoft Corporation の登録商標です。また、Windows、WindowsNT および ActiveX は Microsoft Corporation の商標です。

Oracle は Oracle Corporation の登録商標です。

一般に、会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

MSE および MSJ は、本製品の使用またはその使用によってもたらされる結果に関する保証や告知は一切していません。この製品のもたらす結果およびパフォーマンスに関する危険性は、すべてユーザが責任を負うものとします。

この製品を使用した結果、または使用不可能な結果生じた間接的、偶発的、副次的な損害（営利損失、業務中断、業務情報の損失などの損害も含む）に関し、事前に損害の可能性が警告されていた場合であっても、MSE および MSJ、その管理者、役員、従業員、代理人は、いかなる場合にも一切責任を負いません。

第一版 2004 年 7 月 31 日 Version 9.4 SP3

Copyright 2001 Magic Software Enterprises Ltd. and Magic Software Japan K.K. All rights reserved.

Magic 用語集

Magic 用語集は、Magic eBusiness Platform のマニュアルなどに使用されている用語について解説したものです。

Magic 用語集は、Magic の用語を理解していただくためのものです。Magic eBusiness Platform の詳細な説明に関しては、次のマニュアルを参照してください。

- 新機能ガイド……Magic eDeveloper の新機能について説明しています。
- リファレンス……Magic eDeveloper を詳細に説明しています。
- インストールガイド……Magic のインストールとユーザ登録について説明しています。

I

1 対多のリレーション (One-to-Many Relationship)

共通のデータを持つ 2 つのテーブル間の関係を言います。

第 1 のテーブル (1) では 1 レコードしかないインデックス値が、第 2 のテーブル (多) では複数のレコードに存在する関係を言います。一般的に第 1 のテーブルのインデックスは重複不可であり、第 2 のテーブルのインデックスは重複可に定義されます。

1 対 1 のリレーション (One-to-One Relationship)

共通のデータをいくつか持つ 2 つのテーブル間の関係を言います。

第 1 のテーブルでインデックス値を持つレコードが 1 レコードである場合、それが第 2 のテーブルの 1 レコードに対応する関係を言います。一般的にこのインデックスは両方のテーブルで重複不可として定義されます。

A

APG (Automatic Program Generator)

自動プログラムジェネレータの略語です。APG は、指定したテーブルをもとに照会/データ入出力/印刷/インターネットのスケルトンプログラムの作成または実行させることのできる機能です。APG で作成したプログラムをもとにいろいろな機能を追加させることができます。

B

Blob 型 (Binary Large Object)

BLOB (Binary Large Object) 型は、Magic 以外のアプリケーションによって作成され、サイズの不明なバイナリ情報を含むデータ項目の型です。OLE オブジェクトやビットマップイメージの格納に使用します。NULL 関数は、BLOB の場合正常に機能しません。

C

Cookies

Cookie は、クライアントに保存される HTTP オブジェクトです。

クライアントのブラウザが、Cookie により定義された範囲内の URL にアクセスすると、ブラウザは HTTP プロセスの中で Cookie ファイルに保存されているデータを送信します。Cookie は一定範囲のプログラムに対して情報を提供します。

これに対して、非表示フィールドは、1 つのプログラムのための埋め込み情報であるという点が異なります。

COM インタフェースビルダ (COM Interface Builder)

COM インタフェースビルダーは、Magic アプリケーションを COM オブジェクトとして外部のアプリケーションから呼び出すためのインタフェースを作成するユーティリティです。

COM オブジェクト (COM Object)

COM(Component Object Model) とは、Microsoft 社が提唱する、部品化されたプログラムを作成・利用するための基盤となる技術仕様です。特定の機能のみを持つプログラム部品を組み合わせることでアプリケーションソフトの開発が容易になります。この仕様に基づいてデータのやりとりができるプログラム部品のことを COM オブジェクト (コンポーネント) と呼びます。

Magic は、COM インタフェース経由で他のアプリケーションが Magic アプリケーション内のプログラムを実行させることを可能にします。

また、MagiC から COM オブジェクトを呼び出すこともできます。

CTL 特性 (Application Properties)

Magic の開発モードでのみ有効です。Magic 環境全体の設定を上書きして、特定のアプリケーションの環境を拡張したり、変更したりするためのパラメータがあります。

D

DBA (DataBase Administrator)

DBA とは、SQL DataBase Administrator の略語です。DBA は、物理データベースの定義やバックアップ、復旧処理、ユーザに対するアクセス権の付与などを行う人のことを指します。DBA はまた、必要に応じてデータベースの最適化を行うことがあります。DBA は、通常 RDBMS に対して高いスキルがあり、データベースの設計に精通しています。

DBMS (Database Management System)

データベース管理システム。データベーステーブルにデータを記憶したり、データベーステーブルからデータを取得したりするために使用するソフトウェアです。

DBMS テーブル (DBMS Repository)

[DBMS] テーブルには、Magic が認識する DBMS の一覧が含まれています。

DB テーブルテーブル (DB Table Repository)

このテーブルには、タスクがオープンするテーブルがすべて含まれています。ここには、メインテーブル、リンクテーブルが自動的に表示される他、処理速度の向上をはかるために下位のタスクでオープンするテーブルをあらかじめ定義しておくこともできます。

DDF 作成 (DDF Make)

DDF (Data Dictionary File) は、Pervasive SQL(ISAM) のタイプファイルです。「DDF 作成」オプションを使用すると、テーブルリポジトリ上で、定義されているテーブルに対する DDF ファイルを作成することができます。DDF を使用することで、Magic 以外のデータベースアプリケーションによって、Pervasive ファイル内に保存されたデータを表示することもできます。

DDL (Data Definition Language)

DDL とは、データ定義言語 (SQL Data Definition Language) の略です。

DDL は、データベーステーブルの構造の定義や変更のための処理コマンドの集合で、たとえば CREATE TABLE や ALTER TABLE は、この DDL のコマンドです。DDL のコマンドとしては、このほか、CREATE VIEW などテーブルに対して細かい操作を行えるものもあります。CREATE VIEW では、実際のテーブルのウィンドウ (ビュー) を作成することができます。

DML (Data Manipulation Language)

DML とは、SQL データ操作言語 (SQL Data Manipulation Language) の略です。

DML は、データの変更に関する処理コマンドの集合です。DDL のコマンドではテーブルの構造の定義と変更が可能なのに対して、DML のコマンドでは、テーブルに格納されているデータについて操作を行うことができます。たとえば、DML のコマンドを使用して、データベースのデータを照会したり更新したりできます。SQL の場合、DML のコマンドの構文は、一般に簡単に全体的にも統一されています。

E

eDeveloper

短時間に大規模アプリケーションの開発、変更、保守が出来る多機能な開発環境です。

eMerchant

カスタマイズ型 eBusiness ソリューション。既存のビジネスルールに合わせてカスタマイズして、実行できる eCommece のパッケージ製品です。

EJB インタフェースビルダ (EJB Interface Builder)

EJB (Enterprise Java Bean) インタフェースビルダは、Magic のプログラムを J2EE サーバ上の EJB (ステートレスのセッション Bean) として動作させるためのインタフェースファイル (Proxy EJB) を作成します。

G

**GUI 表示フォーム
(GUI Display Form)**

ユーザと対話するためのウィンドウを定義するフォームです。

**GUI 出力フォーム
(GUI Output Form)**

帳票出力用フォーマットを定義するフォームです。

**GUI フォームエディタ
(GUI Form Editor)**

オンラインアプリケーション用のフォームエディタです。
「フォームエディタ」も参照のこと。

H

**HTML フォーム
(HTML Form)**

Web 表示用フォーマットを定義するフォームです。

**HTML フォームエディタ
(HTML Form Editor)**

HTML 形式のフォームやドキュメントのためのフォームエディタ。
「フォームエディタ」も参照のこと。

**HTML スタイルテーブル
(HTML Style Repository)**

[HTML スタイル] テーブルには、HTML 用のスタイルを定義するための各種のタグが保存できます。

**HTML フレームセットフォームエディタ
(HTML Frame Set FormEditor)**

HTML フレームセットフォームエディタは、ブラウザのウィンドウが複数のフレームに分割されているような、高度なインターネットドキュメントを作成します。

**HTML マージフォーム
(HTML Merge Form)**

HTML マージフォームは、外部のテンプレートファイルと Magic アプリケーションのデータをマージする場合に使用します。

**HTTP リクエスタ
(HTTP Requester)**

Magic に添付されるリクエスタで、Web サーバ上で実行され Magic アプリケーションへの実行要求を発行します。

「インターネットリクエスタ」も参照してください。

I

I/O

I/O とは、入出力 (Input/Output) の略語です。

**INI ファイル
(INI File)**

「MAGIC.INI ファイル」を参照してください。

**ISAM トランザクション
(ISAM Transaction)**

ISAM トランザクションは、開発中の Magic の CTL ファイルへのアクセスを保護します。開発セッションが致命的なエラーのために異常終了した場合、CTL ファイルとすべての ISAM データファイルはそのままの状態に保たれ、作業内容がすべて保存されます。

J

**J2EE 連携
(J2EE Integration)**

Magic アプリケーションのプログラムを EJB として認識させることにより J2EE サーバと連携させることができます。EJB インタフェースビルダによってそのためのインタフェースファイルを作成します。

これにより、J2EE サーバ内の他の Java プログラムから Magic プログラムを呼び出すことができます。

**JAR ファイル
(JAR File)**

Java プログラムの実行に必要なクラスファイルやデータファイルを一つにまとめるためのフォーマット。EJB としてなど、Java で作成したソフトウェアを配布する際に関連するファイルを一つにパッケージングするのに使われます。

Java コンポーネントジェネレータ (Java Component Generator)

Java コンポーネントジェネレータは、ウィザード形式のユーティリティです。Magic が Java のクラスや EJB にアクセスするためのコンポーネントプログラムを作成します。

M

Magic Request Broker

MRB(Magic Request Broker) は、クライアントからのリクエストと、実行エンジンを監視し、制御することができます。

Magic TCP/IP ディスパッチャ (Magic TCP/IP Dispatcher)

Magic の TCP/IP によるクライアント/サーバ通信は、予め指定されたポート上のクライアントリクエストを受信するディスパッチャプロセスに基づいています。このディスパッチャは、クライアントリクエストを受け取ると、そのリクエストを処理するプロセスを作成します。

Magic アプリケーションサーバ (Magic Application Server)

Magic アプリケーションをサーバ上で実行させる実行させるためのエンジンモードです。

Magic キャッシュ (Magic Cash)

包括的なアルゴリズムを使用する汎用的なディスクキャッシュとは異なり、Magic キャッシュでは、プログラマが、物理データについての知識やアプリケーションの性質に応じてキャッシュを微調整できます。

Magic フラットファイル (Magic Flat File)

データベースに依存しない Magic のアプリケーションファイルです。実行版でのみ使用できます。

MAGIC.INI ファイル (Magic.ini File)

MAGIC.INI ファイルには、Magic の動作環境情報が含まれています。Magic を起動するには、このファイルを Magic の作業ディレクトリに入れるか、起動時のコマンドラインで指定しなければなりません。

Magic サーバ (Magic Server)

Magic サーバは、Magic が備えているクライアント/サーバ機能です。

Magic サーバは、クライアント側の Magic アプリケーションが、サーバ上のデータテーブルにアクセスする際に、ファイル管理や通信処理を行うプログラムです。サーバのハードウェアプラットフォームや OS に依存することなく、クライアントはサーバ側のデータをアクセスすることができます。
(Ver9 以降はサポートしていません。)

Magic プログラム (Magic Program)

Magic のプログラムはプログラムツリーの階層構造によって関係付けられた 1 つまたは複数のタスクで構成されています。

[プログラム] リポジトリのプログラム名は、ツリーのルートタスクの名前です。開発者はこのルートタスクを、オンラインプログラムまたはバッチプログラムとして定義できます。

「プログラム」も参照してください。

Magic プロファイラ (Magic Profiler)

MAGIC プロファイラを使用すると、作成したアプリケーションの実行時のパフォーマンスと状態に関する情報を収集し、それらを解析してアプリケーションの実行時の特性を調べることができます。

Magic 実行エンジン (Magic Runtime Engine)

アプリケーションサーバとしての Magic 実行エンジンは、リモートサービスのリクエストを実行することができます。この実行エンジンは、クライアント側でアプリケーションを実行するのに使われるものと、同じ Magic 実行ファイルのインスタンスです。

MCF (Magic Control File)

MCF は、Magic の CTL ファイルの標準的な識別子です。

MGCONST

MGCONST.XXX という名の CONST ファイルには、Magic ユーザ用のインタフェースと言語情報がすべて含まれています。XXX は、言語を示すファイル拡張子です。

たとえば MGCONST.JPN はこのファイルの日本語版です。

MLS

「多言語サポート」を参照してください。

MVCS (Magic Version Control System)

Magic のバージョン管理システムは、オブジェクトのチェックアウトとチェックイン、アプリケーションのバージョン管理を行うシステムを通して、アプリケーションのオブジェクト（テーブル、プログラム、フォームなど）の変更履歴を管理することができます。

(Ver9 では、バージョン管理機能はサポートされていません。)

MVCS 無効 (Force MVCS Disable)

[強制 MVCS 無効] 欄は、特定のアプリケーションのワークグループ開発を許可する MVCS コマンドを無効にします。MVCS データベースが破損した等の理由により、CTL をオープンできなかった場合の回避方法としてここを「Yes」に指定します。

N

Null

データ項目がゼロを含むいっさいの値を持たない場合、このデータ項目は NULL 値を持つとします。NULL 値の取り扱いデータベースによって異なり、パラメータの定義済みの書式やタイプに応じてゼロにリセットされる場合もあります。

Magic では、複数のデータベースのデータにアクセスできるため、開発者は、各パラメータ、タイプ、アプリケーションについて、計算と表示の際に、NULL 値を有効な値として受け入れるかどうか、また NULL 値をどの値で置き換えるかを指定します。

SQL での NULL は、データが存在しないか不明な場合を指します。全ての SQL データベースは NULL 値をサポートします。NULL 値を持っている項目は、ISAM ファイルでスペースが入っている項目とは異なります。NULL とは不明な項目という意味です。

SQL で NULL は特別な処理が要求されます。数値カラムの計算を行う場合、値が NULL ならば、計算結果も NULL になります。文字型項目で NULL 値を許可している場合、データのない項目を全て選択してもその中には NULL 値の項目は入っていません。

NULL 特性 (Null Property)

[NULL 特性] テーブルでは、Magic の各データ型に対し NULL 値の特性を指定できます。

O

ODBC (Open Database Connectivity)

Microsoft 社によって提唱された、データベースにアクセスするためのソフトウェアの標準仕様です。各データベースの違いは ODBC ドライバによって吸収されるため、ユーザは ODBC に定められた手順に従ってプログラムを書けば、接続先のデータベースがどのようなデータベース管理システムに管理されているか意識することなくアクセスできます。

**OLE
(Object Linking and Embedding)**

複数アプリケーション間での透過的なデータ転送、データの共有を行なえるようにする Windows のしくみを言います。

OLE には 2 種類あります。

「OLE リンク」では、オペレーティングシステム内の別のプログラムに格納されているオブジェクトを指すポインタのみを記録します。

「OLE 埋め込み」では、オペレーションシステムにあるオブジェクトが Magic データベース内にすべて格納されます。

**OLE オートメーション
(OLE Automation)**

OLE オートメーションは、OLE オブジェクトの機能や属性を外部からアクセス可能にした機能です。この OLE オートメーション機能により、MAGic から OLE オブジェクトを操作することができます。

**OS コマンド
(Exit Operation)**

[OS コマンド] コマンドは、Magic から出て外部プログラムを実行します。外部プログラムが終了すると、次の Magic タスクの実行を再開します。

R

**RDBMS
(Relational Database Management System)**

リレーショナルデータベース管理システムの略語です。

Magic 製品と一緒に提供されるデータベースゲートウェイを経由して RDBMS にアクセスできます。データベースゲートウェイには、Oracle 用、MS-SQL Server 用、DB2 UDB 用、ODBC 用があります。

RDBMS は、SQL のリクエストを処理します。要求されたデータを検索しその結果をリクエストもとに戻します。この処理は、データベースクエリと呼ばれ、SQL という用語の語源となっています。

S

**SQL コマンド
(SQL Command)**

SQL コマンドにより、SQL 文をもとになる SQL データベースに渡すことができます。

U

**UDF
(User-Defined Function)**

ユーザ定義関数。C 言語で書かれた関数で、Magic の式内で関数として呼び出すことができます。30 個までのパラメータを渡すことができます。

W

**Web サーバ
(Web Server)**

Web へのアクセスを提供するサーバです。

**Web ブラウザ
(Web Browser)**

WWW ページのテキストや画像を閲覧するためのアプリケーションです。

**Web オンライン応答
(Web Online Response)**

Web オンライン応答は、Web オンラインのページから呼ばれた Magic プログラムに対する応答として実行されるコマンドを定義するために使用されます。

**Web サービスインタフェースビルダ
(Web Service Interface Builder)**

Web サービスインタフェースビルダーは、Magic アプリケーション内のプログラムをもとに WSDL ファイルを作成します。

このファイルを公開することで、Magic アプリケーションを SOAP 経由の Web サービスとして提供することができます。

WSDL ファイル
(Web Service Description Language File)

XML Web サービスが提供するサービスの詳細情報を記述する XML ファイルです。サービスに含まれるメソッド名、パラメータ名、データ型などの情報が含まれています。

X

XML コンポーネントジェネレータ
(XML Component Generator)

既存の XML ファイルをテーブル化したり、テーブルデータを XML ファイルにしたりするコンポーネントプログラムを作成するためのユーティリティです。

コンポーネントを作成するために、XCG は XML スキーマ定義 (XSD) ファイルを使います。

Z

Z オーダ
(Z-Order)

コントロールの Z オーダは、コントロールをフォームに配置するときの、コントロールの順序を表わします。フォーム上のコントロールの上下順を表示または変更するには、コンテキストメニュー内の [並べ換え] か [コマンド] パレットを使用します。

あ

アクションコマンド
(Evaluate operation)

アクションコマンドを使用して式で定義されたアクション関数を実行できます。

アクセスキー
(Access Key)

テーブル特性または CTL 特性として定義されるセキュリティコード。ファイルにアクセスキーを指定すると、許可されていないアプリケーションからのアクセスを制限できます。

アプリケーション
(Application)

一般的には、ワープロや表計算などの総合的な機能を実行するソフトウェアシステムのこと、ここでは **Magic** で開発されたプログラム製品を指します。このアプリケーションは、データベースファイルと、データを処理するプログラムを含んでおり、データ入力、帳票出力などの機能を実行して業務上の目的を果たします。

「コントロールファイル」も参照してください。

アプリケーションイベント
(Application Event)

「イベント」を参照してください。

アプリケーションウィザード
(Application Wizard)

アプリケーションウィザードは、ウィザード形式で **Magic** アプリケーションを作成するユーティリティです。

アプリケーションエンジン
(Application Engine)

「エンジン」を参照してください。

アプリケーションコンテキスト
(Application Context)

タスクのすべての処理は与えられたコンテキストの中で行われます。通常、すべてのそのタスクを持つ全体のアプリケーションは 1 つのコンテキストの中で動作します。

アプリケーションコンテキストは、メモリーテーブル、メインプログラム変数、およびグローバルなパラメータのような現在実行中の動作情報を保持します。

アプリケーションサーバ
(Application Server)

「サーバ」を参照してください。

アプリケーションテーブル
(Application Repository)

[アプリケーション] テーブルは、開発時と実行時に使用できるアプリケーションメニューの一覧を保守するために使用します。このテーブルにあるアプリケーションは [アプリケーションメニュー] に表示されます。この中からアプリケーションを選択する事で、アプリケーションをオープンすることができます。

**アプリケーション特性
(Application Properties)**

[アプリケーション] テーブルで定義するアプリケーションの特性値を指します。

日本語訳では、アプリケーションファイル内に保持された特性値を「CTL 特性」として分けています。

**アプリケーションパーティショニング
(Application Partitioning)**

「パーティショニング」を参照してください。

**アプリケーションファイル
(Application File)**

[アプリケーション] テーブルで定義されたファイルで、[アプリケーション一覧] に表示されます。アプリケーションファイルの標準的な拡張子は、「MCF」になります。

「コントロールファイル」も参照してください。

**アプリケーション圧縮
(Application Compression)**

圧縮によって、Magic アプリケーションの CTL ファイルのサイズを縮小することができます。圧縮対象のアプリケーションは、CTL ファイルの作成前定義しておかなければなりません。

「圧縮」も参照してください。

**アボート
(Abort Strategy)**

エラー発生時、アボート機能は現在のトランザクションをロールバックします。物理または遅延トランザクションでは、現在のデータビューを削除し、タスクをアボートします。

ロックエラーや不正ログインのような、エンドユーザが回復できるエラーは対象外です。

**アンチェック
(Uncheck Object)**

ワークグループ環境では、開発者はオブジェクトのチェックアウトを取り消せます。「アンチェック」を実行すると、オブジェクトに対する修正はすべて取り消され、オブジェクトのチェックアウトステータスも取り消されます。

**圧縮
(Compression)**

圧縮をする事で、Magic の CTL ファイルのサイズを縮小することができます。これによって、ディスクの使用量を減らすことができます。CTL ファイルを圧縮するには、開発を始める前に指定をしなければなりません。

**暗号化
(Encryption)**

許可されていないアクセスからファイルを保護するために、ランダム化アルゴリズムに従ってファイルの内容にスクランブルをかけることを言います。暗号化されたファイルは、暗号化アルゴリズムとシードの値がわからないと解読できません。Magic のセキュリティ許可管理システムでは、もともになる DBMS が暗号化に対応していれば、データテーブルと CTL ファイルを暗号化することができます。

**後処理
(Suffix)**

Magic エンジンの処理フェーズのひとつです。保存する直前のレコードに対する終了処理（レコード後処理）、レポートのブレイクレベルに対する終了処理（ブレイク後処理）、タスクの終了処理（タスク後処理）、コントロールの後処理（コントロール後処理）があります。

い

**イベント
(Events)**

イベントとは、定義されたハンドラによって処理される事象の論理的な定義を指します。

**イベント処理
(Event Handling)**

タスクの処理中に発生したイベントトリガに基づき暗黙的または明示的に処理する Magic の処理を言います。

**インターネット APG
(Internet APG)**

インターネット APG を使用すると、特定のテーブルに基づいて、インターネットリクエスタや HTML フォームなどの Magic のインターネット機構を使用した照会プログラムまたは結果表示プログラムのプロトタイプを作成できます。

**インターネットリクエスタ
(Internet Requesters)**

Magic インターネットリクエスタは、Web サーバの 2 種類の API に対応したリクエスタから構成されます。これらのリクエスタは、Web サーバと MRB、またはその他のサポートするミドルウェア間のリンク機能を提供します。

**インデックス
(Index)**

インデックスは、テーブルリポジトリ上のデータをアクセスする場合に使用します。ユニークインデックスは、データ内に 1 つの特定のレコードの存在しか許可されません。ノンユニークインデックスは、複数のレコードで同じデータを持つことを許可します。

**インデックス テーブル
(Index Repository)**

[インデックス] テーブルには、個々のテーブルのインデックス情報が含まれています。

**インデックスセグメント
(Index Segments)**

インデックスを構成するカラムの集合です。このカラムの順序がレコードのソート順序を定義します。

**インデックス最適化
(Index Optimization/Key
Optimization)**

[インデックス最適化] メカニズムを設定すると、Magic は、位置付け/範囲マスクに明示的に指定されているパラメータをチェックして、検索に最適なインデックスを定義することができます。

**位置付け
(Locate)**

Magic の組込み機能のひとつであり、メインテーブルまたはリンクテーブルで目的のレコードを探すための条件を指定します。位置付け機能は、開発モードでもエンドユーザの実行モードでも使用できます。

え

**エディットコマンド
(Browse operation)**

Magic の処理コマンドのひとつです。テキストファイルをポップアップウィンドウに表示し、エンドユーザが照会または編集できるようにします。

**エラーコマンド
(Verify operation)**

[エラー] コマンドにより、開発者はエラーメッセージを表示したり、実行を停止させることができます。

**エラーハンドリング
(Error Handling)**

エラーハンドリング機能によって Magic のデフォルトのエラー処理を変更することができます。

**エンジン
(Engine)**

標準的なループに従ってタスクのデータビューのインスタンスを処理する Magic の内部機構。エンジンは、[タスク定義] ウィンドウに設定された命令をそれぞれの処理フェーズで実行します。

「処理レベルテーブル」も参照してください。

**エンドユーザ
(End-user)**

Magic アプリケーションの開発者が開発したアプリケーションを使用する人。Magic のエンドユーザは、実行モードでアプリケーションを実行します。

**エンドユーザヘルプ
(End-user Help)**

Magic には、ユーザが作業中ヘルプ情報を必要なときに参照できる、ヘルプ画面や自動ヘルプを設計するための機能があります。

**エンドユーザメニュー
(Menus)**

アプリケーションのエンドユーザが使用するメニューです。プルダウンメニューとコンテキストメニューがあります。

**演算子
(Operators)**

算術演算子、論理演算子、文字列演算子があり、[式] テーブルで使用します。

お

**オンラインタスク
(Online Task)**

ユーザが、メインテーブルやリンクテーブルのカラム及びレコードの間を対話処理を通じて移動するタスクです。

**親
(Parent)**

呼び出されたタスクまたはプログラムに対し、それ以前に読み込まれたタスクまたはプログラムを指します。タスクの親は、プログラム構造においてそのタスクの上位に位置します。

**親タスク
(Parent Task)**

呼び出し側タスクまたはプログラムと、呼び出されたタスクまたはプログラムとの関係を示す用語です。親タスクは、プログラムツリーで1つ上のプログラムまたはタスクです。

か

**カーソル
(Cursor)**

カーソルはポインター、ハンドル、もしくは次の SQL 文を実行するために RDBMS によって所有され管理されるメモリー内のセクションのリファレンスです。カーソルには明示的なカーソルと暗黙的なカーソルの2種類があります。

カーソルをオープンすると、カーソルの本体 (SQL ステートメント) が実行され、結果セットが生成されます。アプリケーションでは、カーソルを使用してデータを取り出すことができます。この場合、データは、結果セットの行を1つずつフェッチするという方法で取り出します。

**カラム
(Column)**

カラムはデータベーステーブルの構成要素であり、ここに実際のデータが含まれています。

テーブルコントロールの各列も「カラム」という名前のコントロールです。

**カラムテーブル
(Column Repository)**

[カラム] テーブルには、テーブル内の各カラムの定義情報が含まれています。

**カラムの型
(Column Attribute)**

カラム内の情報の特性です。

- 文字型 : 文字データで使用します。
- 数値型 : 数量データで使用します。
- 日付型 : 日付データで使用します。
- 時刻型 : 時刻や時間データで使用します。
- 論理型 : 「真/偽」などのバイナリ値に使用します。
- メモ型 : もとになるデータベースにカラムのサイズを関連付けます。
- BLOB 型 : Magic 以外のアプリケーションによって作成され、サイズの不明なバイナリ情報を含みます。「BLOB」型は、OLE オブジェクトやビットマップイメージの格納に使用されます。
- OLE 型 : OLE 型の COM オブジェクトで使用します。
- ActiveX 型 : ActiveX 型の COM オブジェクトで使用します。

**カラム特性
(Column Property)**

カラム特性には、対応するヘルプや記憶形式のようなカラムに関連する情報が指定できます。この情報は、コントロール特性に継承することができます。

**仮想テーブル
(Virtual File)**

長さの制限のない擬似テーブルで、タスクで定義されたすべての変数項目で構成されます。

**開始モード
(Startup Mode)**

アプリケーションをオープンした時点での動作モードを定義できます。CTL 特性で指定されていない (N= なし) 場合は、環境設定で指定されたモードで起動します。

**開発モード
(Development)**

Magic アプリケーションを開発または修正するための動作モードです。

**開発版
(Toolkit)**

「開始モード」を参照してください。

**外部キー
(Foreign Keys)**

外部キーは、SQL データベースのポインターです。1 番目のデータベースのレコードと 2 番目のデータベースのレコード間の参照整合性を保持します。

**外部結合リンク
(Left Outer Link Join)**

外部結合リンクは、メインテーブルと結合テーブルの両方が同じデータベースの SQL テーブルの場合に使用できます。

また、メインテーブルと結合テーブルは、多対 1 の関係にならなければなりません。結合テーブル内にメインテーブルと関連するレコードが 1 つまたは、1 つもない状態が必要です。

外部結合リンクは、メインテーブルのレコードと関連のある、結合テーブルのレコードを結合します。もし、関連するレコードがない場合は、NULL を設定します。

関連するテーブルがあれば、「TRUE」を返します。ない場合は、「FALSE」を返します。

**拡張ウィンドウ
(Expansion Window)**

項目のサイズが大きすぎて現在のフォームに表示できないとき、別のフォームを使用してメモ型項目または文字型項目を表示させるウィンドウです。この設定によって項目全体を画面に表示できるようになります。

**書出リンク
(Write Link)**

リンク方式が「W = 書出」の場合には、Magic はリンクを構築しようとします。リンクに成功すると、リンクレコードの選択された項目のデータが、データビューに取り込まれます。

Magic では、リンクに失敗すると、代入式の内容を基にレコードが作成されます。

**確認リンク
(Validate Link)**

リンク特性で「確認 = Yes」の場合には、Magic は「確認リンク」を構築しようとします。リンクに成功すると、リンクレコードの選択された項目のデータが、データビューに取り込まれます。

リンクに失敗すると、タスクがオンラインの場合とバッチの場合とで、Magic の動作が異なります。

バッチタスクの場合：リンクに失敗すると、「照会リンク」として動作します。

オンラインタスクの場合：「レコードが見つかりません」というエラーを表示します。リンクレコードが成功するまで、カーソルを進めることはできません。

**型
(Attribute)**

「項目の型」を参照してください。

**関数
(Function)**

特定の値を返す式が内部に埋め込まれている処理。関数は、たとえば文字列操作、時間や時刻に関する算術演算、タイプの変換などに使用できます。

き

**キーボード割付
(Keyboard Mapping)**

Magic の組込みアクションに対するキーボードのキーの割り当てを指します。

**キャッシュ
(Cache)**

「Magic キャッシュ」を参照してください。

**基本色テーブル
(Color Repository)**

[基本色] テーブルは、前景色と背景色を定義するデータから成り、プリセットされた色、ユーザによる定義色、またはシステムに予約された色を示します。

**強制 MVCS 設定キー
(Force MVCS Key)**

Supervisor は、アプリケーションに対して [強制 MVCS 設定キー] を設定することによって、ワークグループトランザクションへのアクセスを特定のユーザーに限定させることができます。

[強制 MVCS 設定キー] 欄は、このキーの所有しているユーザーのみ CTL 特性で参照することができます。

**許可
(Authorize)**

エンドユーザーや開発者に対して、アプリケーションに割り当てる利用制限オプションをいいます。

Magic のユーザー認証機能によって、使用が許可されるオブジェクトを制限することができます。

**行
(Row)**

実際のデータを含む物理的な単位であり、テーブルに格納され、[テーブル] リポジトリで定義されます。1つのテーブルの各行は同じ構成です。1つの SQL 文にて同時に1つまたは複数の行を操作することができます。

く

**クライアント
(Client)**

クライアントとは、ネットワーク上のいろいろな種類のサーバのサービスを利用しているコンピュータのことです。

**クライアント / サーバ
(Client/Server)**

クライアント/サーバ環境とは、フロントエンドとして複数のコンピュータ資源を利用し、バックエンドサーバ上でアプリケーションの実行やデータの蓄積、保護などをネットワーク環境で実現するものです。

**クラス
(Class)**

[フォーム] テーブルのクラス値が1以上のフォームデータからズームすると、フォームエディタは同じクラス値に属するテーブルからすべてのフォームを表示します。レポートフォームの場合、対応するヘッダ、明細行、フッタのフォームがすべて同時に表示されます。

**グループ
(Group)**

「ユーザーグループ」を参照してください。

**グループレベル
(Group Level)**

Magic エンジンのレベルのひとつであり、「グループ前処理」、「グループ後処理」の2つの処理テーブルを参照します。

グループレベルはバッチプログラムでのみ使用し、グループ項目として設定した1つまたは複数の項目の値が変化すると、処理を実行します。通常は、レポートの集計を出力するために使います。

**グループ後処理
(Group Suffix)**

「後処理」を参照してください。

**グループ前処理
(Group Prefix)**

「前処理」を参照してください。

**クロスリファレンス
(Cross Reference)**

Magic のクロスリファレンス機能を使用することで、タイプ、カラム、プログラムなどがどこで使用されているかを検索することができます。

け

**ゲートウェイ
(Gateway)**

特定のデータベース管理システム (DBMS) を使用してデータの記憶と取得を可能にする、ファイル管理サービス用の Magic モジュールです。

継承 (Inheritance)

指定した設定内容が自動的に対応づけられることを言います。たとえば、[モデル特性] ダイアログで選択テーブルプログラムを特定の「モデル」に対応させた場合、選択テーブルプログラムは、そのモデルが使われているカラムや変数に対してズームを実行しますとテーブル選択プログラムが起動されます。つまり、このモデルは、選択テーブルプログラムの指定を継承したことになります。

結合リンク (Link Join)

このリンク方式は、Magic の機能と併せて、RDBMS の結合機能を使用して複数のデータベースファイルの読み込みを行ったり、結合を行ったりするときに使います。この方式では、1 対多のリレーションの作成が可能です。この「結合リンク」は、ユーザがレコードを更新したり、Magic により再計算が実行されると機能しますが、この「結合リンク」は「確認リンク」として機能します。

このリンク方式を指定しておく、タスクでデータビューが作成される際、Magic により結合テーブルに関する JOIN 構文が生成されます。また、定数と一致条件が入った Where 句も Magic によって作成され、この Where 句では、メインテーブルと結合テーブルの列の名前が指定されます。

この「結合リンク」で JOIN 構文が生成されると、「結合リンク」からは戻りコードとして「True」が返ります。その後、「結合リンク」が「確認リンク」として機能した場合（つまり、ユーザによるレコードの更新や Magic による再計算が実行された場合）、リンクの作成が試みられ、その結果、リンクレコードの項目の値がレコードのデータビューに表示されます。

権利 (Rights)

Magic のユーザ許可管理方式。権利の設定とは、次の 3 つの事項を結びつけるプロセスです。

- [テーブル] リポジトリや [プログラム] リポジトリなど、Magic の構成要素
- 「修正」や「削除」など、その構成要素へのアクセスレベル
- ユーザ（またはユーザグループ）アプリケーションに対する権利は、[権利] リポジトリに含まれています。

ユーザに権利を割り当てることによる、アプリケーションのエンドユーザとアプリケーション定義に関するセキュリティのために、ユーザ ID とパスワードの管理を行うオプション。

言語テーブル (Language Repository)

[言語] テーブルには、Magic の多言語サポート機能が使用する変換ファイルを定義します。

こ

コードフリープログラミング (Code-free Programming)

一連の手続き的命を書かずにプログラムを作成すること。コードとは、通常テキストファイル上に入力される一連の手続き的命です。コードは、コンパイルやアセンブル、またはインタプリタなので解釈された後に実行されます。

Magic では、数百の命を 14 の非手続き的処理コマンドで置き換えることにより、コードを廃止しました。プログラムを動作させるための長いロジックを記述する代わりに、プログラムリポジトリにこれらのコマンドを記述することでプログラミングできるようになっています。

コールコマンド (Call operation)	<p>[コール] コマンドには5種類あり、さまざまなタイプのサブルーチンの実行に使用します。</p> <p>[コールタスク] はサブタスクを、[コールプログラム] は Magic プログラム、[コール式] は式記述によるプログラム、更に [コールユーザ PRC] はユーザ定義プロシジャの呼び出しを行います。[コールリモート] は、Magic Request Broker を通じてリモートの Magic プログラムを呼び出します。[コール公開プログラム] は、公開名が定義されたプログラムを呼び出すことができます。[コール COM] は、COM オブジェクトを呼び出し、[コール Web サービス] は、SOAP を使用した Web サービスの呼び出しを行うことができます。</p> <p>呼び出されたサブルーチンにパラメータを渡したり、逆にサブルーチンからパラメータ値を受け取ることもできます。</p>
コマンドパレット (Command Palette)	[コマンド] パレットには、コントロールの整列、サイズ変更、上下順の変更を行うためのツールがあります。
コメント (Comment)	各オブジェクトに対してテキストボックスを開き、コメントとしてのテキストを入力することができます。コメントが入力できるのは、モデル、テーブル、プログラム、ヘルプです。
コンテキスト (Context)	「アプリケーションコンテキスト」を参照してください。
コンテキストマネージャ (Context Manager)	各オブジェクトに対してテキストボックスを開き、コメントとしてのテキストを入力することができます。コメントが入力できるのは、モデル、テーブル、プログラム、ヘルプです。
コンテキスト変数 (Context Variable)	<p>[コンテキスト変数] は、ある HTML フォームから別の HTML フォームに移動する場合に、HTML フォームの環境情報を維持します。[コンテキスト変数] は、「Cookie」や「非表示フィールド」を使用して実行されます。</p> <p>「Cookies」および「非表示フィールド」も参照のこと。</p>
コントロール (Controls)	コントロールとは、フォームの外観を設計する際にフォームに配置できる定義済みのオブジェクトです。コントロールによって、データの表示、関数の実行、パラメータの設定、テキストラベルの表示などができます。
コントロール後 (Control Suffix)	指定されたコントロールからカーソルが離れた直後を指します。
コントロール検証 (Control Verification)	<p>指定されたコントロールからカーソルが離れた場合や、高速モードで通過した場合を指します。</p> <p>[コントロール検証] ハンドラでは、コントロールに入力された値のチェック処理などを定義します。</p>
コントロール変更 (Control Change)	指定されたコントロールの値が変更された場合を指します。
コントロールパレット (Control Palette)	[コントロール] パレットには、Magic のフォームに配置できる各種のコントロールが表示されます。Magic がサポートする [コントロール] パレットには、GUI フォーム用、テキスト形式フォーム用、HTML 形式フォーム用、HTML フレームセットフォーム用があります。
コントロールファイル (Magic Application File)	<p>Magic アプリケーションのすべてのオブジェクトが含まれているファイルです。</p> <p>「アプリケーション」も参照してください。</p>

コントロール前 (Control Prefix)	指定されたコントロールにカーソルが移動した直前を指します。
コンポーネントインタフェースビルダ (Component Interface Builder)	モデルやテーブル、プログラムのようにアプリケーションの各オブジェクトをに対するインタフェースファイルを作成するためのユーティリティです。
コンポーネントリポジトリ (Component Repository)	ロードしたコンポーネントの内容を管理するオブジェクトです。以下のオブジェクトタイプがロードされます。 モデル、テーブル、プログラム、ヘルプ、権利、イベント、動作環境
公開 XXXX 名 (Public Name)	オブジェクトを外部から参照する場合に使用する名前。 アプリケーションパーティショニングやコンポーネントを利用する場合に使用します。
公開権利キー (Public Rights Key)	公開権利キーとは、公開権利のコード名です。公開権利とは、アプリケーションの外部から参照できる権利です。
項目 (Variable)	カレントまたは上位タスクで設定された実データ項目または変数項目で、項目一覧に表示されます。 データベーステーブルには直接関連づけられていない、すべてのテーブルにあるデータ項目。設定リポジトリ、プログラム、タスク、データビュー、フォームなどを示す場合もあります。
項目の型 (Valiavble Type)	データ項目の型とは、データ項目に格納されている情報の性質をいいます。この型は、[タイプ] リポジトリや [カラム] テーブルの [型] 欄を使用して定義します。 <ul style="list-style-type: none"> • 文字型 : 文字または数字で構成される文字列 • 数値型 : 整数または小数 • 論理型 : 値が 0 または 1 の 1 バイトデータで、0 は偽、1 は真を表します。 • 日付型 : 通常の日付として表示されます。 • 時刻型 : 時間の長さや特定の時点の時刻の両方を表すことができます。 • メモ型 : メモは、可変長の文字データです。実際の記憶型式は、使用しているデータベースでサポートされている機能によって異なります。 • BLOB 型 : バイナリのデータで、Magic 以外のアプリケーションで作成されたものです。サイズは不明です。 • OLE 型 : OLE 型の COM オブジェクト • ActiveX 型 : ActiveX 型の COM オブジェクト • ベクトル型 : 配列形式のデータを扱う場合に使用します。
項目モデル (Field Model)	モデルリポジトリで定義された項目の型/書式。アプリケーションで共通に利用できます。
項目一覧 (Variable List)	必要に応じていつでも参照できる項目のリストで、現在のタスクと上位タスクで選択された変数がすべて含まれています。
項目更新コマンド (Update operation)	[項目更新] コマンドは、項目に特定の値を代入する場合に使用します。
高速モード (Fast Mode)	高速モードは、カーソルの動きによって処理コマンドがどのように処理されるかを定義できる 2 つのモードのうちの 1 つです。 高速モードの場合、処理コマンドの実行フラグが高速モードか両用モードのどちらかでないと実行されません。ユーザがマウスでカーソルを別の項目に移動した場合や、上下の矢印キーでやページダウン (アップ) キーでレコード間の移動を行った場合に高速モードに入ります。

子ウィンドウ
(Child Window)

二次的なサブタスクウィンドウ。[フォーム特性] ダイアログの [子ウィンドウ] オプションで、サブタスクのウィンドウをメインタスクの親ウィンドウ内に表示するか、実行時に独立したウィンドウとして表示するかを設定します。

子タスク
(Child Task)

[コールタスク] コマンドでプログラムから呼び出されるサブタスク。

さ

サーバ
(Server)

「Magic サーバ」を参照してください。

サーバテーブル
(Server Repository)

[サーバ] テーブルは、使用するアプリケーションサーバやデータサーバを定義します。アプリケーション内でサーバを指定する場合は、サーバテーブルの名前で指定します。

サービステーブル
(Service Repository)

[サービス] テーブルには、使用するサーバと、そのサーバで実行するアプリケーションを定義します。

サブタスク
(Subtask)

親プログラムまたは親タスクに呼び出される子タスクです。

サブツリー
(Subtree)

プログラムツリーのブランチであり、ツリー関連の操作において上位のタスクのグループとして扱われます。ただし、ルートタスクは除きます。

し

シークレット名
(Secret Names)

シークレット名は、許可管理システムの使用権利の内容を、権利を持たないユーザーに対して隠さなければならない場合に使用します。たとえば、アプリケーションファイルのアクセスキーやデータファイルのアクセスキーには、シークレット名を使用しなければなりません。

シンボル名
(Letter Code)

[式] テーブルで使用する [項目一覧] の各項目に対応づけられたコード。

上位タスク
(Ancestor)

コールコマンドによって起動された結果として上位タスクという関係が成立します。プログラムツリー上の親の位置に該当します。

照合順序
(Alternating Collating Sequence)

照合順序とは、ASCII 順にソートする代わりに使用されるインデックスによってソートされる順序です。照合順序は、「照合順序ファイル」で定義されます。

使用権利
(Authorization System)

「権利」を参照してください。

自動プログラムジェネレータ
(Automatic Program Generator)

「プログラムジェネレータ」を参照してください。

実行モード
(Deployment)

Magic には、2 種類の動作モードがあります。開発モードと実行モードです。実行モードは、エンドユーザーがアプリケーションを実行させるためのモードで、Magic アプリケーションに対する変更はできません。

処理レベルテーブル
(Execution Repository)

処理レベルテーブルは、Magic が実行するデータビュー処理の各フェーズを表しています。各フェーズとは、レコードループ、ブレイクレベル、タスクループ、ハンドラレベルを言います。

式 (Expression)

計算に使われる定数または数式であり、[式] テーブルに含まれています。

式テーブル
(Expression Rules Repository)

[式] テーブルには、タスクに対して定義されたすべての式が含まれています。

処理テーブル
(Operation Repository)

[タスク定義] ウィンドウの下部には、強調表示されているレベルに対応する処理テーブルが表示されます。タスク定義のタイトルには、それらの処理に関連する以下のような実行レベル名が表示されます。

- レコードメイン
- レコード前処理
- レコード後処理
- グループ前処理
- グループ後処理
- タスク前処理
- タスク後処理
- ハンドラ
- コントロール

処理コマンド
(Operation)

タスク定義では、14種類の処理コマンドの一覧から必要なものを選択し、処理を定義できます。

出力フォーム
(Output Form)

レコードをテキストファイルや出力デバイスに書き出すときは、出力フォームで出力するレイアウトを指定します。

書式
(Picture)

データ項目の表示のしかたを言います。データ項目の書式には、書式文字が使用できます。

初期モード
(Initial Mode)

タスク特性の設定項目のひとつで、タスクの実行を開始する時の処理モードを指定します。

- 修正
- 登録
- 照会
- 削除

などがあります

実データ項目
(Real Variable)

「データ項目」を参照してください。

常駐タスク
(Resident Task)

常駐タスクとは、起動時にメモリにロードされ、起動もとのタスク（またはプログラム）が終了するまでメモリ上に常駐されるタスク（またはプログラム）を言います。

常駐テーブル
(Resident Table)

常駐テーブル機能を使用することで、開発者は、ディスク入出力を減らしたり、クライアント/サーバディスク環境でのネットワークトラフィックを減らすことにより、システムのパフォーマンスを向上させることができます。

実行版
(Runtime)

「実行モード」を参照してください。

実行エンジン
(Runtime Engine)

「Magic 実行エンジン」を参照してください。

照会
(Query)

Magic プログラムジェネレータのオプションのひとつで、オンラインデータ入力と保守用のプログラムを実行または作成します。

照会リンク
(Query Link)

リンク方式が「Q = 照会」の場合に、Magic はリンクを構築しようとしません。リンクに成功すると、リンクレコードの選択された項目のデータが、データビューに取り込まれます。

リンクに失敗すると、項目の型に従ってそのデフォルト値が代入されます。

時刻型
(Time Type)

時刻型のデータは、秒数によるカウンターとして記録されます。時刻型項目は、経過時間または絶対時間の値の記録する場合に使用できます。日付型と同様に加算減算が可能です。表示する場合は、指定された書式に基づいて表示させることができます。

選択プログラム
(Select Program)

選択プログラムは、タイプ、カラム、変数、コントロールの各特性で指定します。選択プログラムが定義されている表示項目にカーソルが置かれている場合、ズームアクションで指定したプログラムが起動されます。

す

スーパー権利キー
(Super Rights Key)

スーパー権利キーは、その所有者に特定のアプリケーションへの全処理についてすべての使用権利を許可します。

ズーム
(Zoom)

[フロー] 欄に [後置] モードまたは [前置] モードを設定すると可能になるアクションです。

ズームは、関連ウィンドウをポップアップさせたり（コールタスクコマンド）、ブロック内で一連の処理コマンドを実行したり（ブロックコマンドとブロック終了コマンド）する場合に使用します。ズームできる場合は、ステータス行にズームインジケータが表示されます。

スクリーンモード
(Screen Mode)

スクリーンモードでは、テーブルの行を各画面に 1 行ずつ表示します。これは 1 行に多くのカラムがあり、表示しきれない場合に使用します。

数値型
(Numeric Type)

データ型のひとつ。Magic は 18 桁までサポートします。ただし、桁数と 10 進数字はそれぞれの近似値まで切り上げます。

せ

セキュリティファイル
(Security File)

セキュリティファイルには、[シークレット名] テーブルが含まれていません。セキュリティファイルは暗号化されます。

セレクトコマンド
(Select operation)

セレクトコマンドは、タスクの論理レコードを作成するための要素を定義し、同時にタスクで使用する項目を定義するコマンドです。

設定 (Settings)

Magic 環境のグローバルな定義項目が表示されるプルダウンメニューです。以下は、メニュー項目です。

- アプリケーション
- 動作環境
- 基本色
- フォント
- サーバ
- サービス
- ビジュアル接続
- 通信ゲートウェイ
- DBMS
- データベース
- 論理名
- 言語
- プリンタ
- HTML スタイル
- プリンタ属性
- チェックメッセージ
- シークレット名
- ユーザグループ
- ユーザ ID

そ

ソート (Sort)

指定されたパラメータに基づき、一時的にレコードの表示順序を変更する機能です。この機能は開発者とエンドユーザ共に実行できます。

た

ダイレクト SQL (Direct SQL)

ダイレクト SQL には、ビルトイン SQL サポート（非明示レベル）と、埋め込み SQL（明示レベル）があります。Magic に組み込まれた SQL サポートにより、開発者は SQL ベースの各種の RDBMS に接続し、アクセスするアプリケーションを開発することができます。

対話型 Web アプリケーション (Interactive Web Application)

Magic では、Web ブラウザをクライアントとした対話型の Web アプリケーションを作成することができます。

ブラウザ側にクライアントモジュールを提供し、イベント処理を使用して関連するデータを持つ HTML コントロールを制御します。

タスク (Task)

Magic エンジンがデータビュー上で実行するプロセスを制御するための、アプリケーションルールの集合です。[プログラム] リポジトリに含まれるタスクは、プログラムと呼ばれます。

タスク レベル (Task Level)

タスク前処理とタスク後処理のレベルのことで、それぞれタスクの開始時と終了時に実行されます。「レベル」を参照してください。

タスク 前処理 (Task Prefix)

「前処理」を参照してください。

タスクウィンドウ (Task Window)	選択した項目や式をコントロールとして配置するメイン画面またはフォームです。
タスクタイプ (Task Type)	タスクの種類です。オンラインまたはバッチのいずれかを指定します。
タスク後処理 (Task Suffix)	「後処理」を参照してください。
タスク制御 (Task Control)	[タスク制御] で設定するパラメータは、実行時のタスクの動作を制御するために使用します。
タスク定義ウィンドウ (Task Execution Repository)	タスク定義ウィンドウには、データビュー処理の各フェーズで実行される処理が示されています。タスク定義ウィンドウは、レコードレベル、グループレベル、タスクレベルで構成されています。
タスク特性 (Task Properties)	タスク特性とは、プログラムやタスクの実行特性を定義するものです。
タスク番号 (Generation)	タスク番号は、タスクの階層をもとに自タスクを基準にした世代番号です。関数のパラメータとして使用されます。 たとえば、以下のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 ならばカレントタスク • 1 ならば親タスク • 2 ならばその上の親タスク
多言語サポート (Multilingual Support)	Magic の多言語サポート (MLS) によって、開発者は1つの言語で作成したアプリケーションを実行時に多数の言語で表示させることができます。

ち

チーム開発 (Team Development)	複数の開発者で同じアプリケーションを開発することを言います。
チェックアウト (Check Out Object)	[チェックアウト] は、ワークグループ開発モードでのコマンドのひとつです。ワークグループ環境においてオブジェクトをチェックアウトすると、チェックアウトしたユーザだけがそのオブジェクトを編集できるようになります。
チェックイン (Check In Object)	[チェックイン] は、ワークグループ開発モードでのコマンドのひとつです。オブジェクトの編集後にチェックインすることで、オブジェクトをアプリケーションに戻すことができます。

**チェックメッセージ
(Checker Message)**

[チェックメッセージ] テーブルを使用して、構文チェックのチェックレベルを変更することができます。

**チェック結果
(Checker Result)**

構文チェックユーティリティの結果が [チェック結果] ペインに表示されます。

**チョイスコントロール
(Choice Control)**

エンドユーザに値を選択させるコントロールです。以下のものがあります。ラジオボタン、タブ、リストボックス、およびコンボボックス。

**遅延トランザクション
(Deferred Transaction)**

データビューのレコードの変更をコミットするまで、DM ステートメント (insert/update/delete) の実行を遅らせることです。Magic は、各 DM ステートメントをキャッシュに保存し、データベースに変更をコミットした時点で、全ての変更内容を反映させます。

**中止パラメータ
(Non-abortable)**

[項目更新] コマンドのオプションのひとつであり、エンドユーザによる更新の取り消しを禁止することにより、更新後のレコードを保存します。

つ

**ツリー
(Tree)**

「プログラムツリー」を参照してください。

**ツールアプリケーション
(Tool Application)**

Magic eDeveloper には、Magic アプリケーションを開発中に使用するユーティリティとして登録することができます。このアプリケーションを指します。

これらのアプリケーションは、開発モード中にツールメニュー上に表示されます。

**通常モード
(Step Mode)**

通常モードは、カーソルの動きにより処理コマンドがどのように実行されるかを定義するモードの1つです。通常モードに入った場合、カーソルが次項目か前項目に移る操作を行ったときのみ処理コマンドが実行されます。

**通信ゲートウェイテーブル
(Communication Repository)**

[通信ゲートウェイ] テーブルには、Magic 起動時にロードされる通信ドライバを指定できます。

て

**データコントロール
(Data Control)**

コンボボックスやリストボックスは、データコントロールとして定義され、データベースのカラムデータから範囲データを選択することができます。

**データ出力ウィザード
(Print Data Wizard)**

プログラムが実行中に、表示されているデータを帳票などに出力するためのウィザードユーティリティです。

**データタイプ
(Data Type)**

「カラムの型」を参照してください。

**データの完全性
(Data Integrity)**

データの完全性とは、データの内容がデータベース上のものと完全に一致することを言います。

**データビュー
(Dataview)**

アプリケーションのメインテーブルやリンクテーブルから選択した、実データ項目と変数項目によって定義される論理レコードの集合体を言います。

**データベーステーブル
(Database Repository)**

[データベース] テーブルには、現在インストールされている Magic からアクセスできるすべての物理データベースについて、その詳細情報が登録されています。

**データ管理
(Data Management)**

物理データベースに保存することで、データを管理します。

データ項目 (Data Item)	カラム、パラメータ、変数などのデータの要素のことを言います。
データ辞書 (Data Dictionary)	データを定義するために組み合わせて使うオブジェクトを集めたものを、総称して「データ辞書」と言います。[テーブル] リポジトリ、[モデル] リポジトリ、[カラム] テーブルなどがあります。
データ入力 (Import operation)	[データ入力] コマンドを使用することで、テキストファイルまたは入力デバイスからデータを読み取り、その内容を入力フォームで定義される項目にロードすることができます。
テーブル (Table)	<p>テーブルとは、データの内容を2次元で表示させたものです。RDBMS 上の各テーブルは、ユニークな名前を持っており、それぞれが ISAM でのファイルに該当します。テーブル上の全てのデータは特定のトピックと関連しており、カラムと行 (Row) で構成されています。</p> <p>テーブルは、[テーブル] リポジトリで定義します。</p>
テーブルリポジトリ (Table Repository)	テーブルリポジトリは、アプリケーションで使用する全てのテーブルを定義しているオブジェクトです。
テーブル選択プログラム (Selection Table Program)	<p>タスク特性の設定欄のひとつで、テーブルの内容から選択するためのプログラムとして動作するように定義します。このようなタスクは、Enter を押すと、レコード後処理を実行して、終了時に、現在強調表示されているレコードの情報をパラメータを介して渡します。</p> <p>この選択プログラムは、タイプ、テーブル、コントロールに対して設定します。対応づけられたタイプ、テーブル、コントロールでカーソルがパークすると、ズームアクションでこのプログラムが実行されます。</p>
テーブル定義取得 (Get Definition)	Magic のユーティリティのひとつであり、DBMS のデータ辞書からテーブル定義を直接ロードできます。データベースからは、1 つまたは複数のテーブル定義をロードできます。テーブル定義取得ユーティリティは、ロード機能を実行できるゲートウェイでのみ動作します。
テーブル変換 (Table Conversion)	インデックスの変更、カラム定義の修正、カラムの追加が行われた際に、Magic が [テーブル] リポジトリのカラムに定義されたレイアウトを使用して自動的に物理データを整列させることを言います。
テキスト形式フォーム (Text-based Form)	GUI 形式に対応していないアプリケーションやテキストファイルを出力する場合、テキスト形式フォームを使用します。Magic のフォームエディタは Windows の GUI インターフェースを使用してフォームの編集を行うことができます。
デバッガー (Debugger)	「フローモニタ」を参照してください。

**定義取得
(Load Table Definition)**

1 つまたは複数のテーブル定義情報をデータベースから [テーブル] リポジトリへ読み込むことを言います。

と

**ドキュメントテンプレート機能
(Documentation Template Facility)**

ドキュメントテンプレート機能を使用すると、テーブル、リポジトリ、ダイアログ、エンドユーザ用フォームなど、特定のアプリケーションに対する構成要素をプリンタ出力できます。これらの出力内容は、開発者用のドキュメントとして利用することができます。

**特性シート
(Property Sheet)**

(テーブルカラム、変数項目、フォーム、およびヘルプ画面などの) オブジェクトの特性値を設定するためのウィンドウです。Magic の MDI に接合したりフローティング表示させたりすることができます。

**トランザクション
(Transactions)**

トランザクションは、データベースに関する何らかの処理で、単一もしくは複数の SQL ステートメントで構成されます。トランザクションを構成する SQL ステートメントは、通常、相互に密接に関連していますが、実際には別個に独立して機能します。トランザクションを構成する SQL ステートメントは、トランザクションの中の論理単位と考えることもできます。

アプリケーションで、データベース中の複数のテーブルに対して更新を行う場合、トランザクションはデータベースの整合性に注意して定義しなければなりません。

**トリガー
(Triggers)**

データベーストリガーは、INSERT、UPDATE、DELETE の様に SQL ステートメントやストアードプロシージャでトリガーとなるデータベースイベントを言います。構文は、RDBMS によって異なります。

**動作環境ダイアログ
(Environment Dialog)**

[動作環境] ダイアログには、実行時と開発時のシステムを構成するグローバルな Magic の設定がすべて含まれています。

**特性
(Properties)**

特性とは、Magic の各オブジェクト (タイプ、テーブル、カラム、インデックス、フォーム、タスク、エンドユーザメニューなど) の詳細な動作条件を指します。

な

**ナビゲータ
(Navigator)**

アプリケーションの開発操作を補助するウィンドウです。

に

**入出力ファイル
(I/O File)**

データの読み書きに使用するテキストファイルで、通常は非データベースファイルです。

**入出力ファイルテーブル
(I/O File Repository)**

[入出力ファイル] テーブルには、タスクでオープンされるすべての入出力ファイルが含まれています。

**入力フォーム
(Input Form)**

テキストファイルや入力デバイスからデータを入力する場合の入力書式を定義するフォームです。ここに、入力対象となるカラムや変数を定義します。

は

**パーティショニング
(Partitioning)**

パーティショニングによって、ユーザはリモートコンピュータ (サーバ) 上にある任意の Magic アプリケーションプログラムを実行できます。

**バッチタスク
(Batch Task)**

Magic が自動的にループしてメインテーブル全体を処理するタスク。エンドユーザとの対話処理は必要ありません。たとえば、印刷プログラムやバッチ入力プログラムなどがあります。

**バッファ管理
(Buffer Management)**

Magic アプリケーションが、外部のプログラムをアクセスする場合のパラメータとしてバッファを使用します。

一般的には、構造体として定義されているパラメータを持つプログラムにデータを渡す場合、バッファを利用します。

**パラメータ
(Argument)**

他のプログラムやタスクから渡されるデータです。

**パラメータテーブル
(Parameter Table)**

パラメータとして使用する変数を定義するテーブルです。変数と同じように扱うことができます。

**パラメータ項目
(Parameter Variable)**

[コール] タスク/プログラムから値を受取るために使用するローカル変数

範囲 (Range)

データビューのレコードの範囲を指定する下限値と上限値です。範囲欄に設定した範囲は、タスク制御で選択される変数（実データ項目と変数項目）や範囲式に影響します。エンドユーザも開発者によって許可していればプログラム実行中に範囲を設定できます。

**ハンドラ
(Handler)**

イベントトリガが発生した場合に実行される処理を指します。

ひ

**ビジュアル接続
(Visual Connections)**

[ビジュアル接続] は、Magic の特定のサービスと使用できるサーバとの間の接続を表示します。[ビジュアル接続] に表示された接続線を変更することによって、サーバ接続を変更できます。

**ビュー
(View)**

ビューは SQL 上の " 仮想テーブル " です。ビューの元になるテーブルはベーステーブルと呼ばれます。ビューの定義 (ビューの元になるベーステーブル) は、データベースに格納されます。表示されるデータはベーステーブルのみに格納されています。

ビューを使うことで、セキュリティの確保や DML ステートメントの簡略化、処理速度の向上も見込めます。

ビューにはいくつか制限もあります。たとえば、複数のテーブルをもとに作成したビューでは、データを挿入することはできませんし、データの更新や削除も不可能です。また、SELECT ステートメントでカラム名のほかに式を使用してカラムを指定し、その SELECT ステートメントでビューを作成した場合、作成されたビューでは、内容の更新はできません。

**日付型
(Date Type)**

日付型は通常、内部では「数値」型で記憶されます。ただし、文字型として指定することもできます。数値型の場合は、0001/01/01（または、1901/01/01）からの経過日数のカウント値として格納されます。この場合は、数値型項目と同じように加算処理が可能です。フォーム上には、指定された日付書式で表示されます。

**非手続的処理
(Non-procedural)**

Magicにより各タスクで自動的に行われる自動的な動作で、DB テーブルのオープン、入出力ファイルのオープン、データビューの構築、レコード処理後の各レコードの保存などがあります。

**非表示フィールド
(Hidden Variables)**

環境設定は、HTML フォームに追加された表示字フィールドを使用して設定することもできます。HTML フォームで非表示フィールドを使用して環境設定を設定した場合、その設定は、そのフォームからインターネットリクエストによって直接呼び出されるプログラムでのみ有効です。したがって、後続のプログラムで、先行のプログラムのフォームと同じ環境設定を使いたいときには、各プログラムのフォームでそれぞれ環境設定を定義しなければなりません。

ふ

**ファイル
(File)**

Magic には 2 種類のファイルがあります。外部参照ファイルと、入出力ファイルです。

- 外部参照ファイルは、Magic とは、別の場所に配置された環境情報などを格納したファイルです。
- 入出力ファイルは、データ入出力コマンドにて入出力の対象となるファイルです。

**フィールド
(Field)**

フィールドとは、Magic のリポジトリ/テーブルの各入力項目を指します。

**フォーム
(Form)**

フォームは以下の設計に使用します。

- タスクのメイン画面のレイアウト。項目と式をコントロールとして配置します。
- タスクが拡張ウィンドウとして使用する追加のウィンドウ、あるいは、呼び出されたタスクやプログラムを呼び出し元のタスクのウィンドウ内に表示するためのウィンドウ。
- レポートレイアウト。レポートヘッダ、レポート明細行、レポートフッタ、テキスト（入出力）ファイルのレコードのレイアウトが含まれます。

**フォームエディタ
(Form Editor)**

フォームエディタは、[フォーム] テーブルの各フォームに対して定義されたフレームとその内容を表示します。これを使うと、さまざまなウィンドウ、レポート、テーブルレイアウトをタスクごとに設計できます。

フォームエディタは、以下のフォームの種類によって機能が異なります。

- GUI 形式 フォーム
- テキスト形式フォーム
- HTML 形式フォーム
- HTML フレームセットフォーム

**フォームテーブル
(Form Repository)**

[フォーム] テーブルには、すべてのウィンドウ、レポート、テキスト入出力レイアウトのパラメータが含まれています。

**フォームテンプレート
(Form Template)**

フォームテンプレートは、現在オープンしているフォームのレイアウト情報を保存したファイルを指します。

テンプレートには、フォームの外観に関する情報は含まれますが、フォームの動作に関する情報は除かれます。テンプレートにはほとんどのコントロールとコントロール特性の情報が含まれますが、コントロール特性のうち、以下のものは含まれません。

- コントロール名
- 式
- データ
- 選択プログラム

**フォーム作成
(Generate Form)**

開発モードでフォームを作成する Magic 機能です。

**フォーム自動作成
(Form Generator)**

[レコードメイン] で定義されているセレクトコマンドの順序に基づき、タスクのメイン画面や帳票フォームを自動的に作成する Magic の機能。

**フォントテーブル
(Font Repository)**

フォントテーブルには、有効なフォントの種類が登録されています。ユーザ定義フォントを登録することもできます。

**ブックマーク
(Bookmark)**

ユーザが特定のオブジェクトに対してリンクされたしおりを定義することができます。

**ブラウザタスク
(Browser Task)**

ブラウザベースアプリケーションで実行されるタスクです。エンドユーザは、ブラウザからレコードからレコードへ移動しながら参照できます。

**ブラウザフォーム
(Browser Form)**

Web ベースのアプリケーションで使用されます。外部の HTML エディタを使用してフォームを編集できます。

**ブラウザ形式アプリケーション
(Browser-Based Application)**

agic eBusiness Platform では、ブラウザをクライアントにしたアプリケーションを開発することができます。ブラウザベースの実行パラダイムでは、必要な全ての動作ロジックを HTML コントロールに含める必要があります。

**プリンタテーブル
(Printer Repository)**

現在インストールされている Magic で使用できる出力デバイスとその属性の一覧です。テーブルの各データは論理プリンタです。Magic アプリケーションが参照するのは論理プリンタのみです。

**プリンタ属性
(Print Attribute)**

[プリンタ属性] テーブルは、実際のプリンタコマンドをアプリケーションの出力フォームに対応づけることにより、印刷される帳票の書式を制御するために使用されます。

フロー (Flow)	フローは、処理テーブル上の各処理コマンドに対して2つの異なるパラメータとして設定することができます。[フロー] 欄で所定の値を設定すれば、実行モード時にエンドユーザによるカーソル操作が更に追加できます。 最初の [フロー] 欄は、高速、通常、両用モードの指定です。2番目は、エンドユーザに対してズーム処理を実行させるための条件設定を行うことができます。
フローモニタ (Monitor/Debugger)	Magic のデバック機能です。実行中のプログラムのフローを表示したり、ブレイクポイントを指定することでフローの動きを監視したりすることができます。
プログラム (Program)	プログラムツリーの階層構造によって関係付けられた1つまたは複数のタスクを言います。 [プログラム] リポジトリのプログラム名は、ツリーのルートタスクの名前です。開発者はこのルートタスクを、オンラインプログラムまたはバッチプログラムとして定義できます。
プログラムジェネレータ (Program Generator)	照会、入力、出力のプログラムを作成する Magic の機能です。一時的なプログラムとして作成する ([E=実行]) か、プログラムリポジトリ内で永続的なプログラムとして作成 ([G=作成]) することができます。
プログラムチェック (Syntax Checker)	モデルやテーブル、プログラムなどから実行することの出来る構文チェックのオプション・ユーティリティです。
プログラムチェックユーティリティ (Check Syntax Utility)	プログラムチェックユーティリティは、タイプ、テーブル、プログラム、及び各タスクについて、構文上の誤りをチェックします。
プログラムツリー (Program Tree)	プログラムツリーは、メインプログラムとその子タスクとして定義されたタスクをすべて表示します。コーププログラムで呼び出すプログラムは表示しません。
プログラムリポジトリ (Program Repository)	[プログラム] リポジトリは、アプリケーション内で開発された各プログラムで構成されています。
プログラム作成 (Generate Program)	開発モードでプログラムを作成する Magic 機能です。ただし、プログラムの実行は行いません。
ブロックコマンド (Block operation)	一定の条件のもとで実行される、1つまたは複数の処理コマンドのグループを指定するための処理コマンド。
プロファイラ (Profiler)	「Magic プロファイラ」を参照してください。
復旧 (Recover Strategy)	エラー発生時後、アプリケーションの処理を継続させるようにするモード。ロックや、最大接続数を超えた場合等のエラーが発生した場合、Magic は自動的に処理を繰り返します。
分散アプリケーションアーキテクチャ (Distributed Application Architecture)	アプリケーションの機能をネットワーク上の複数の PC に分散させて運用する構成を言います。 分散されたコンポーネント間の通信処理は、メッセージングや Magic の MRB、および DCOM などを利用することができます。
へ	
ヘッダ (Header)	同じクラスのフォームを印刷しているとき、EOP(End-of-page) に到達するたびにヘッダタイトルを印刷するよう設定するフォーム定義。[フォーム] テーブルでは、各ヘッダフォーム定義を明細行フォーム定義の直前に配置しなければなりません。

**ヘルプ画面
(Help Screens)**

アプリケーションの適当なところでヘルプを表示させるためのヘルプの設計機能です。

「エンドユーザヘルプ」を参照してください。

**変数テーブル
(Virtual Table)**

変数カラムテーブルは仮想テーブルです。全てのタスクで定義することができます。

**変数項目
(Virtual Variable)**

タスクの実行中に、累計、戻り値、範囲指定などのために一時的に使用する項目です。

**変換ファイル
(Translate File)**

プリンタテーブルの [変換ファイル] 欄には、印刷に必要な変換ファイルの場所と名前 (オペレーティングシステムでの名前) を指定します。この変換ファイルには、Magic の内部キャラクタコードと物理プリンタのコードの対応表を置きます。変換ファイルには 256 までの文字列を定義することができます、それぞれ、ASCII キャラクタコード (Magic の内部キャラクタセット) を対応させます。このファイルで指定した文字列がプリンタに送られます。プリンタに送られる文字列には、シングルキャラクタコードのほか、マルチキャラクタコードを定義することもできます。また、制御コードも定義できます。

**変換
(Conversion)**

「テーブル変換」および「モデル変換」を参照してください。

ま

**マルチインスタンス実行
(Multi-instance Activation)**

Windows 上で Magic は、同一コンピュータ上で同時に複数回ロードできます。実行中の Magic をオープンすると、Magic のインスタンスを新たにロードできます。Magic の異なるインスタンスは、マルチユーザ環境における異なるユーザとみなされます。

**マルチユーザアクセス
(Multi-user Access)**

[マルチユーザアクセス] パラメータは、動作環境ダイアログで設定します。

- 「Yes」に設定すると データベースを複数のユーザで共有してアクセスできます。
- 「No」に設定すると すべてのテーブルを他のユーザからはアクセスできない状態でオープンします。

**前処理
(Prefix)**

Magic エンジンの処理レベルのひとつで、タスクの初期化 (タスク前処理)、ブレイクレベルの初期化 (ブレイク前処理)、個々のレコード処理の初期化 (レコード前処理) などを行います。

「レベル」も参照してください。

め

**メインテーブル
(Main Table)**

メインテーブルは、プログラムの処理対象として中心となるテーブルです。「レコードループ」も参照してください。

**メインプログラム
(Main Program)**

アプリケーションに必ず1つ存在するプログラムです。アプリケーション全体でアクセスできる変数やイベントを定義できます。メインプログラムは、アプリケーションが実行モードでオープンされたり、開発モードから実行モードに切り替わったり、プログラムリポジトリからプログラムを起動したり、テーブルリポジトリから APG でプログラムが実行された場合に必ず一回実行されます。

**メッセージキュー
(Message Queuing)**

アプリケーション間でデータを交換して連携動作させる際に、送信するデータをいったん保管するテーブルです。ここに保管することで、相手の処理の完了を待つことなく次の処理を行なうことができます。

従来はメッセージの送受信に際し、双方で互いに同期するよう配慮してプログラムを開発する必要がありましたが、メッセージキューイングを導入することにより、送信側のソフトは相手の都合を考えずに、キューと呼ばれる領域にデータを格納するだけで、確実にメッセージを送り届けることができます。一時的に接続が途絶えるような状況が想定される場合でも、アプリケーション側では特に対策を行なわなくても確実に相手にメッセージを届けることができます。

**メッセージングコンポーネント
(Messaging Component)**

Magic は、以下の3種類のメッセージキューイングシステムをサポートするコンポーネントを提供しています。

- MSMQ (Microsoft)
- JMS (Sun)
- WebSphere MQ (IBM).

**メニュー
(Menu)**

Magic には、アプリケーション用のメニューを定義する機能があります。

**メニュー 特性
(Menu Property)**

メニュー特性ダイアログには、エンドユーザメニューのさまざまな追加情報を設定することができます。

たとえば、メニューとヘルプ画面を関連づけたりすることができます。

**メニューリポジトリ
(Menu Repository)**

Magic のユーザメニューを定義するテーブルです。プルダウンとコンテキストを定義することができます。

**メモ型
(Memo Type)**

可変長文字のデータ型。Magic は、もともになるデータベースでの最も近い型を使用し、このデータ型を可変長形式で記憶します。

**メモリテーブル
(Memory Tables)**

Magic のメモリーゲートウェイを使用して作成されたテーブルです。ISAM の DBMS を使用したテーブルと同じように扱うことができますが、データはクライアントマシンのローカルメモリ内に格納されます。このため、Magic エンジンを終了すると内容は破棄されます。

も

**モデル
(Models)**

モデルは、特定のオブジェクトタイプに対する継承可能な特性を持ったオブジェクトです。Magic では、以下のオブジェクトに対してモデルを定義できます。

項目、コントロール、フォーム、ヘルプ

**モデルリポジトリ
(Model Repository)**

モデルリポジトリには、各オブジェクトのタイプに対するユーザ定義モデルを登録する場合に使用します。

**モデル特性
(Model Properties)**

モデル特性ダイアログは、ヘルプ画面や記憶形式など、このモデルを使用する全てのカラムに継承される設定を定義するものです。

**モデル変換
(Model Change)**

開発者がモデルの構成要素を修正すると、[モデル] リポジトリの終了時に Magic が自動的に変換が必要かどうかのチェック処理を開始します。データベーステーブルに対する変更は必要に応じて手動で行う必要があります。

**文字型
(Alpha Type)**

英数字の文字列で定義されるデータ項目の型。変数項目でも実カラムの場合でも最大長は 32K までです。

ゆ

**ユーザ ID
(User ID)**

[ユーザ ID] テーブルでは、各ユーザにパスワードや所属するグループが割り当てられます。[ユーザ ID] テーブルへのアクセス権があるのはスーパーバイザだけで、スーパーバイザはユーザ ID を追加、削除できます。

**ユーザグループ
(User Group)**

セキュリティシステムにおいて、Magic オブジェクトに対して同じアクセス権を持つユーザの集まりを分類します。許可管理システムでは、個々のユーザまたはグループに権利を割り当てることができます。ユーザは複数のグループに所属していてもかまいません。

**ユーザプロシジャ
(User Procedure)**

[コールユーザ PRC] コマンドを使用して Magic プログラム内で呼び出す、C または Pascal 言語の関数。ユーザプロシジャを使用するには、Magic 付属のインストールファイルでプラットフォーム所定の準備を行わなければなりません。

ら

**ライセンス管理
(License Management)**

ライセンス管理は、ライセンスサーバとライセンスマネージャの 2 つのソフトウェアで行います。ライセンスの追加、削除などを行う場合は、ライセンスマネージャが必要です。必要に応じてこれらをインストールしてください。

**ラインモード
(Line Mode)**

Magic プログラムのオンラインモードには、2 種類のレコード表示モードがあります。レコードをラインモードで表示すると、1 レコードが 1 行で表示され、表示行の一番上にはそれぞれのカラムの名前が表示されます。

ラインモードで表示されたレコード間を移動するには、矢印キーかスクロールバーを使ってスクロールアップまたはスクロールダウンします。

り

**リクエスタ
(Requester)**

「HTTP リクエスタ」を参照してください。

**リクエスタ クライアント
(Requester Client)**

リクエスタクライアントは、MRB にリクエストを出すメカニズムです。

**リソースロック
(Resource Locking)**

リソースロックとは、ある瞬間にはただ一人のユーザのみによって占有される仮想的な要素（リソース）を作成して、ロックを実現することです。それぞれのリソース名はユニークにしなければなりません。

**リテラル
(Literals)**

リテラルは、**Magic** の式で使用される数値や文字列によって表現された定数です。

リテラルを使用することで、指定内容が変更された場合も自動的に反映されるようになります。

**リポジトリ
(Repository)**

リポジトリとは、テーブル形式で構成されている基本的な **Magic** のオブジェクトとアプリケーションの定義要素です。

**リポジトリ入出力
(Export/Import)**

Magic のリポジトリ入出力機能は、アプリケーションの構成要素を移植または変換できる機能です。提供されるサービスには、以下のものがあります。

- 他のアプリケーションオブジェクトの取り込み
- 下位バージョンや異なったプラットフォームで開発されたアプリケーションの変換
- 同じアプリケーションの出力後の再取り込み
- ドキュメントの自動作成など

**リンクコマンド
(Link operation)**

Magic の処理コマンドのひとつであり、メインテーブルから選択したカラムの値を使用して、別のデータベーステーブルのレコードと関連づけることができます。

「照会リンク」、「確認リンク」、「書出リンク」、「結合リンク」も参照してください。

**リンクテーブル
(Linked Table)**

[リンク] コマンドによって、**Magic** プログラムで使用できるようになるテーブルです。

れ

**レコード
(Record)**

「論理レコード」を参照してください。

**レコードメイン
(Record Main)**

セレクト項目、リンク、範囲によってデータビューを定義する [実行] テーブルです。レコードメインでは、カーソルの移動経路に基づくタスクの動作や、ある項目から別の項目に移動する場合の操作についても設定できます。

**レコードループ
(Record Loop)**

1つのレコードが読み込まれてから、それが保存され、次のレコードが読み込まれるまでの間に行われるすべての処理をいいます。このループのレコードは、メインテーブルやリンクテーブルから取り込まれます。オンラインタスクの場合、レコードループには、レコード前処理、レコードメイン、レコード後処理によって定義された手続きの処理が含まれます。バッチタスクの場合は、レコード前処理とレコード後処理が含まれます。

**レコード後処理
(Record Suffix)**

「後処理」を参照してください。

**レコード前処理
(Record Prefix)**

「前処理」を参照してください。

レベル (Level)

Magic であらかじめ定義されているタスク実行ループの中のフェーズ。以下の各レベルにおいて、指定した一連の操作が実行されます。

- レコードレベル：レコード前、レコードメイン、レコード後
- ブレイクレベル：ブレイク前、ブレイク後
- タスクレベル：タスク前、タスク後
- コントロールレベル：コントロール前、コントロール後、コントロール検証、コントロール更新
- ハンドラ

ろ

ログオン (Logon)

[ログオン] ダイアログでは、Magic 開発者またはエンドユーザのユーザ ID とパスワードを指定します。

ロック方式 (Locking Strategy)

[ロック方式] は、現在のタスクが処理しているレコードに対して他のユーザがアクセスすることを防ぐために、Magic がロックを行うタイミングや状態を定義するパラメータです。必要に応じて、メモリ内の情報と実データとの検証も行います。

論理型 (Logic Type)

0 または 1 の値を持つ 1 バイト項目として記憶されるデータ項目の型です。0 が False、1 が True を表します。

真/偽、黒/白、Yes/No など、対になった値を格納する場合に論理型を使用します。

論理名 (Logical Name)

Magic 内で使用するパス名などの定義文字列です。実行時に Magic が実際の値で置き換えます。論理名と実際の値の対応付けについては、[論理名] テーブルで定義します。

論理レコード (Logical Record)

メインテーブルと任意のリンクテーブルから選択したすべての項目（実データ項目と変数項目）に基づいて、メモリ上に仮想的に作成されたレコードです。

わ

ワークグループ開発モード (WorkgroupDevelopment Mode)

ワークグループ開発の主要な構成要素は、チーム開発とバージョン管理です。

チーム開発は複数の開発者による同一のアプリケーションにおける並行開発を管理します。

バージョン管理はアプリケーション内の変更履歴と変更内を管理します。

(Ver9 では、バージョン管理機能はサポートされていません。)

